

公開セミナー「子どもの貧困／不利／困難を考える」

2015年7月25日(土)14:00～16:15

Part 1「貧困／不利／困難に負けない力(レジリエンス)」と自己肯定感

子どもの自己肯定感の低下を 防ぐ要因はなにか

阿部 彩

首都大学東京



大阪子ども調査

- ・ 対象者： 大阪市教育局事務局が各区より 1～2校、児童数・生徒数を考慮して抽出
 - 大阪市内の公立小学校51校の全小学5年生 4,154名
 - 大阪市内の公立中学校31校の全中学2年生 4,199名
- ・ 調査時期： 2012年11月
- ・ 調査方法： (A)子ども票 (B)保護者票
 - ・ 無記名、密封方式
 - ・ 子どもが家に(A)および(B)を持ち帰り、それぞれ封をしてから、さらにそれを大きい封筒に入れる。子どもも保護者票をみず、保護者も子ども票をみない。封筒は、密封したまま研究者チームに。
- ・ 調査内容： 子どもの希望、学校生活、自己肯定感などと保護者の就労状況との関連



回収率と子どもの属性

- 有効回答数 小学校 3,152票 (有効回答率76%)
中学校 2,880票 (有効回答率69%)

調査回答者のプロフィール:

	子ども票			保護者票 (回答した人の属性)					
	男子	女子	性別未記入	母親	父親	祖母	祖父	その他	無回答
小学生	1525	1536	91	2804	219	20	4	5	97
	48%	49%	3%	89%	7%	0.6%	0.1%	0.2%	3%
中学生	1316	1520	44	2517	218	16	3	7	114
	46%	53%	2%	88%	8%	0.6%	0.1%	0.2%	4%

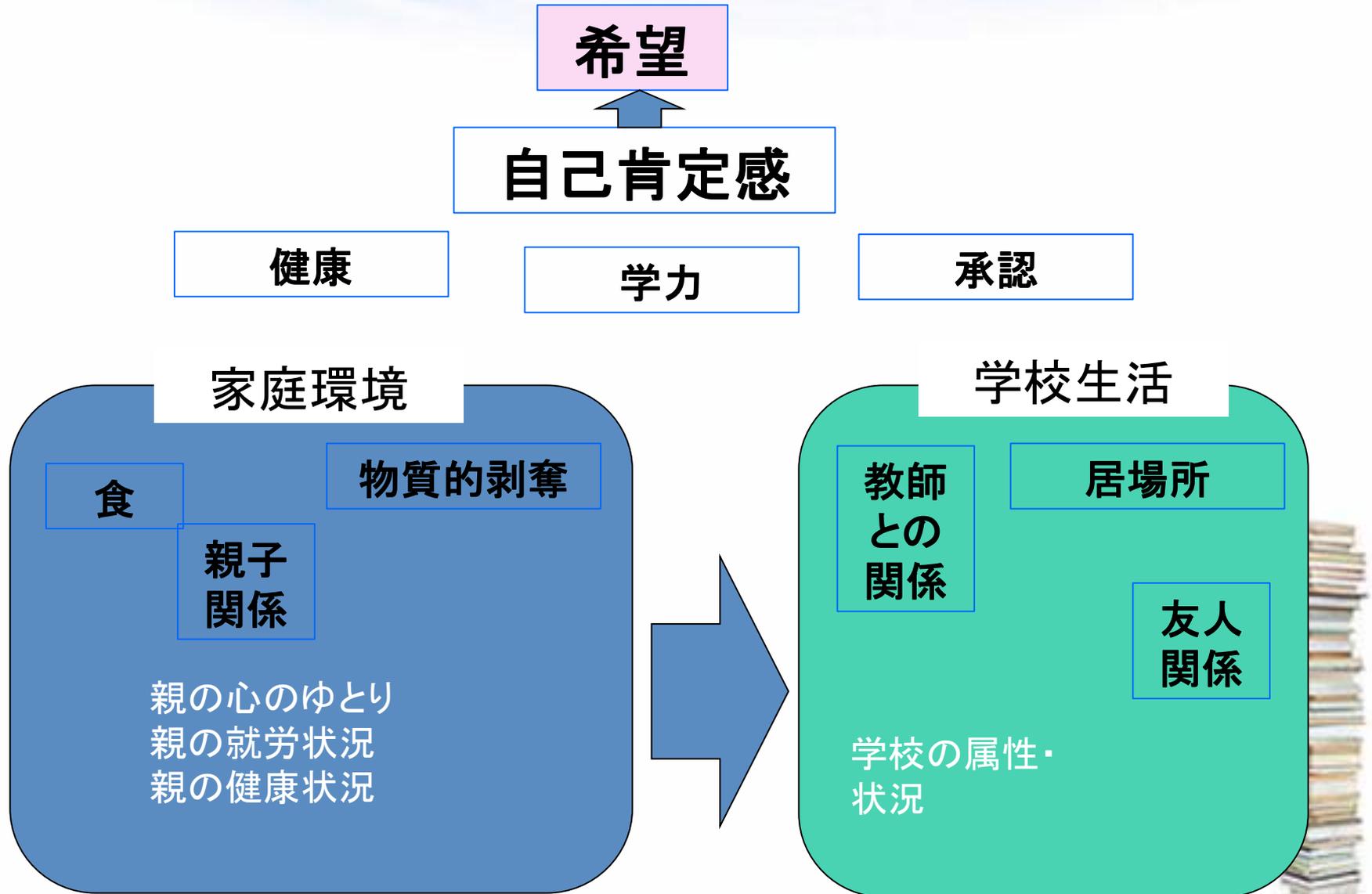
	世帯タイプ				所得階層※1 (貧困 非貧困)		所得階層(3層)※2		
	二親世帯	母子世帯	父子世帯	その他+不明	貧困層	非貧困層	低	中	高
小学生	2532	484	56	57	323	2368	898	897	896
	81%	15%	2%	2%	12%	88%	33%	33%	33%
中学生	2186	550	61	54	326	2079	799	803	803
	77%	19%	2%	2%	14%	86%	33%	33%	33%

分析は、保護者票の「所得情報」から、貧困／非貧困、および所得3階層(低、中、高)にて行った。

貧困の定義は、世帯等価所得(世帯の合算所得を世帯人数で調整した値)が125万円以下の世帯(厚労省定義) (小学生12%、中学生14%)



調査の視点：自己肯定感

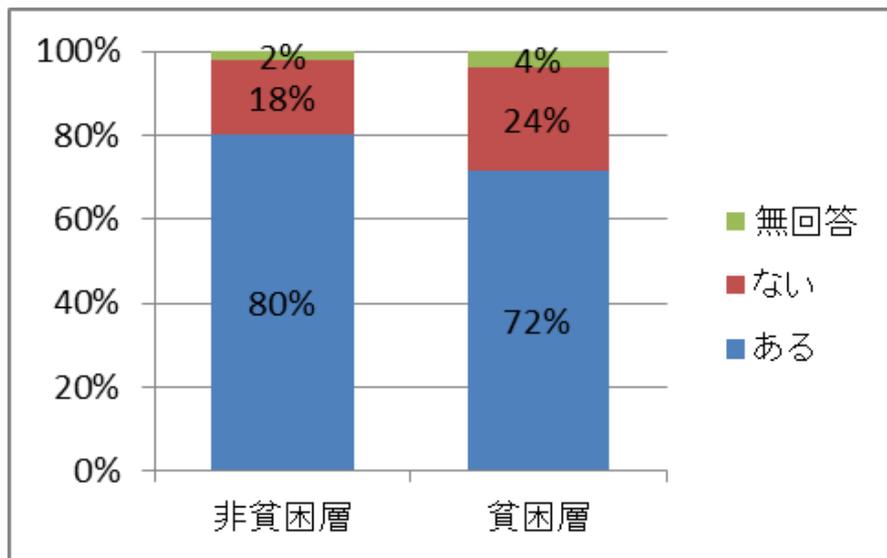


子どもの夢格差

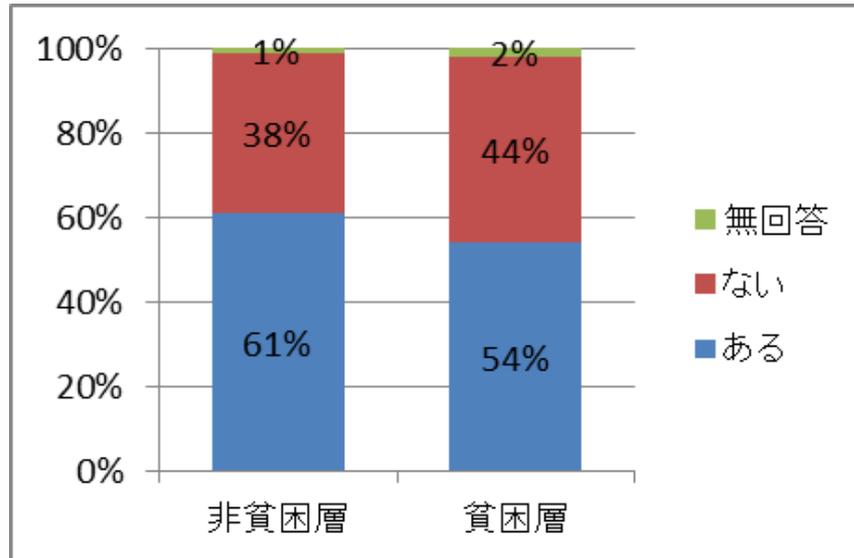


貧困層の子どもは「夢」がない割合が多い

小学5年生



中学2年生



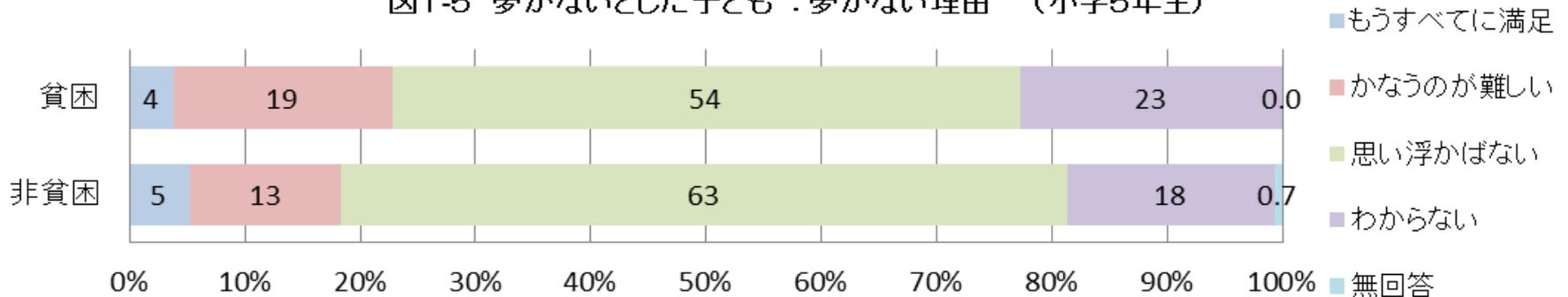
大阪市の公立小中学校の児童各4,100人調査
出所： 阿部・埋橋・矢野(2014)



夢がない理由

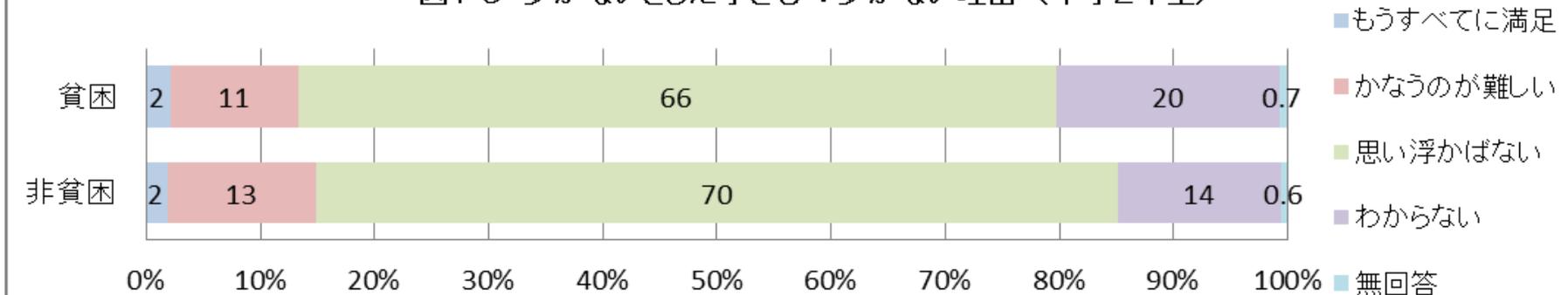
小学5年生

図1-5 夢がないとした子ども：夢がない理由（小学5年生）

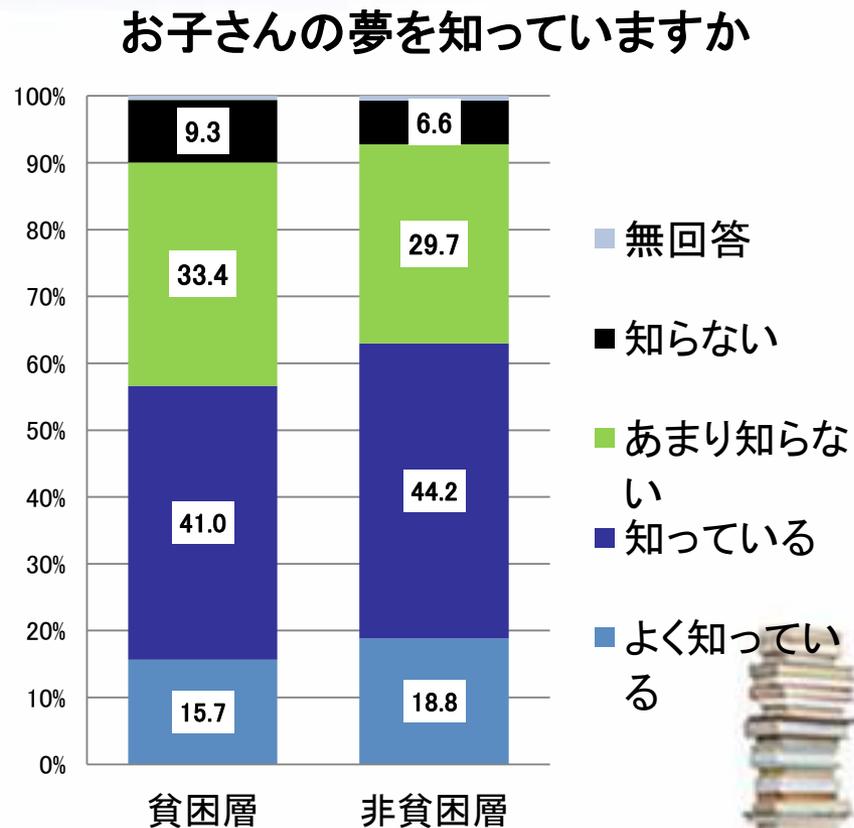
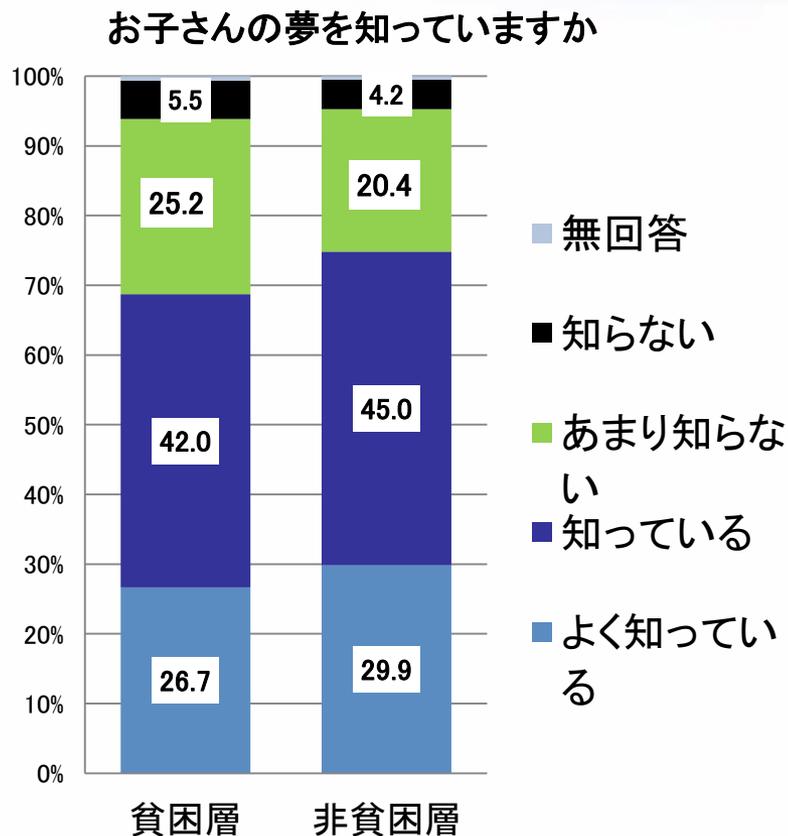


中学2年生

図1-6 夢がないとした子ども：夢がない理由（中学2年生）



保護者は子どもの夢を知っているか



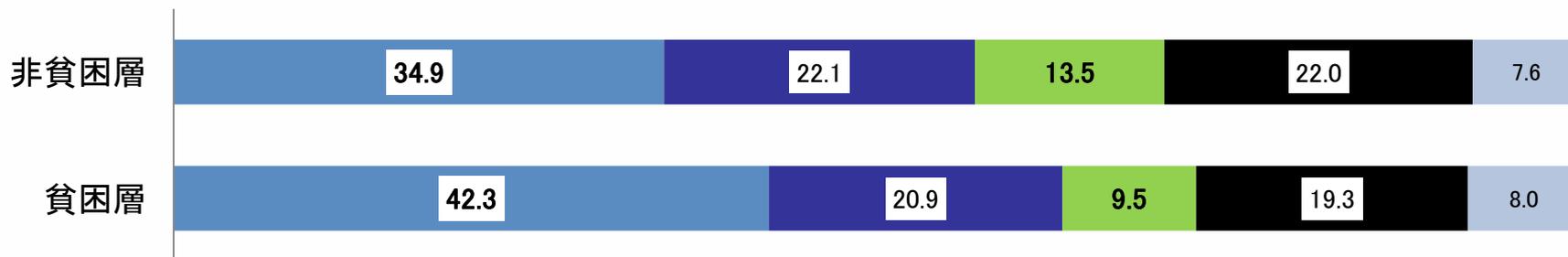
- 子どもの夢を知らない親は、貧困層では5.5%(小学5年)、9.3%(中学2年)



保護者自身も将来の希望が持ててない

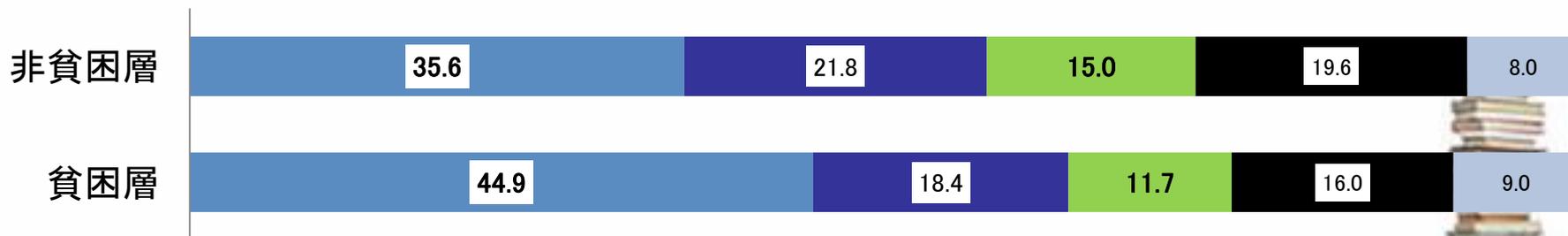
将来に対して希望を持てる日(1週間のうち) 小学5年の保護者

■ ほとんどない ■ 1~2日 ■ 3~4日 ■ 5日以上 ■ 無回答



将来に対して希望を持てる日(1週間のうち) 中学2年の保護者

■ ほとんどない ■ 1~2日 ■ 3~4日 ■ 5日以上 ■ 無回答

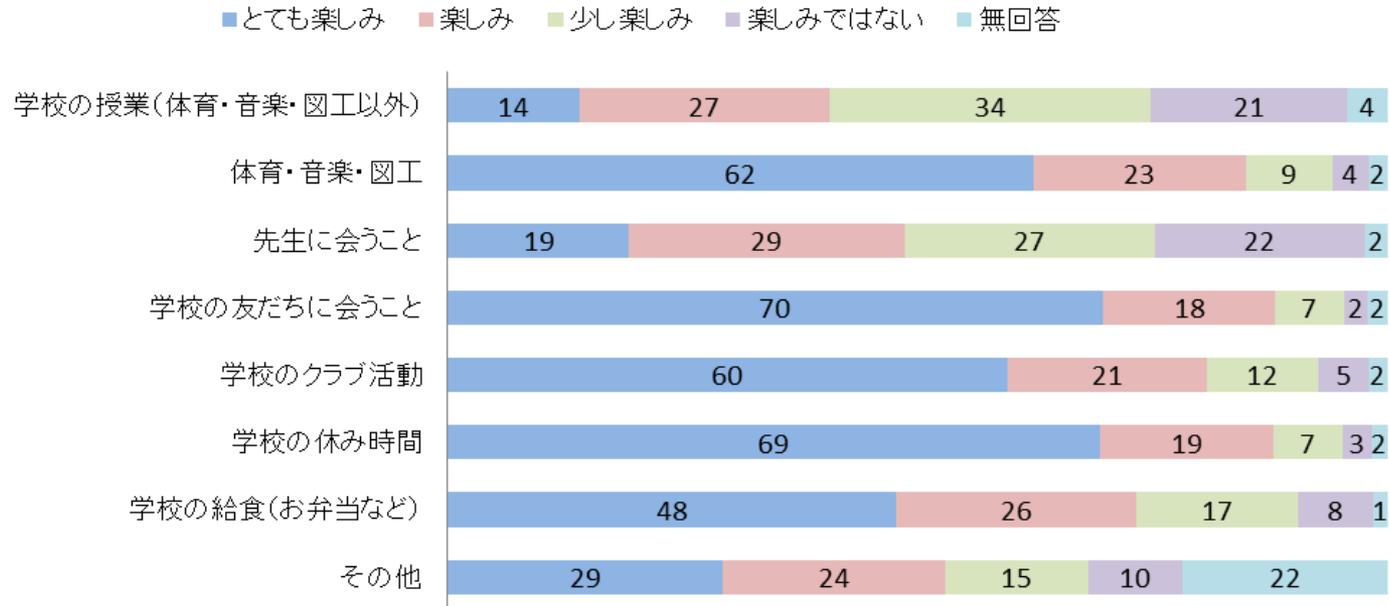


- ・ 貧困層の保護者の4割以上は自分自身が将来の希望が持てていない。



学校の何が楽しみか

図7-1 学校生活（小学5年生）（%）



- ・ 友達、休み時間、体育・音楽・図工、クラブ活動
- ・ 授業と先生に会うことは低い割合。
- ・ 中学校はこの傾向が顕著。



クラブ活動・習い事・塾

表9-1 クラブ活動、部活動への参加

		小学5年生				中学2年生					
		度数	(%)	貧困 (%)	非貧困 (%)	度数	(%)	貧困 (%)	非貧困 (%)		
クラブ活動	している	1819	58%	59%	55%	2325	81%	74%	83%		
	していない	1254	40%	40%	41%	515	18%	24%	17%		
	無回答	76	2%	2%	4%	35	1%	1%	0.8%		
					(χ ² =9.899, p=0.007)					(χ ² =12.528, p=0.002)	

表9-3 習い事の有無

		小学5年生				中学2年生					
		度数	(%)	貧困 (%)	非貧困 (%)	度数	(%)	貧困 (%)	非貧困 (%)		
習い事	している	2574	82%	62%	86%	2034	71%	54%	75%		
	していない	531	17%	38%	14%	788	27%	42%	24%		
	無回答	44	1%	(該当サンプルなし)		53	2%	4%	1%		
					(χ ² =119.2 66, p=0.000)					(χ ² =73.248, p=0.000)	



貧困が及ぼす子どもの内面への影響

図8-5 子どもの自己肯定感：「そう思わない」とした割合（小学5年生）（％）

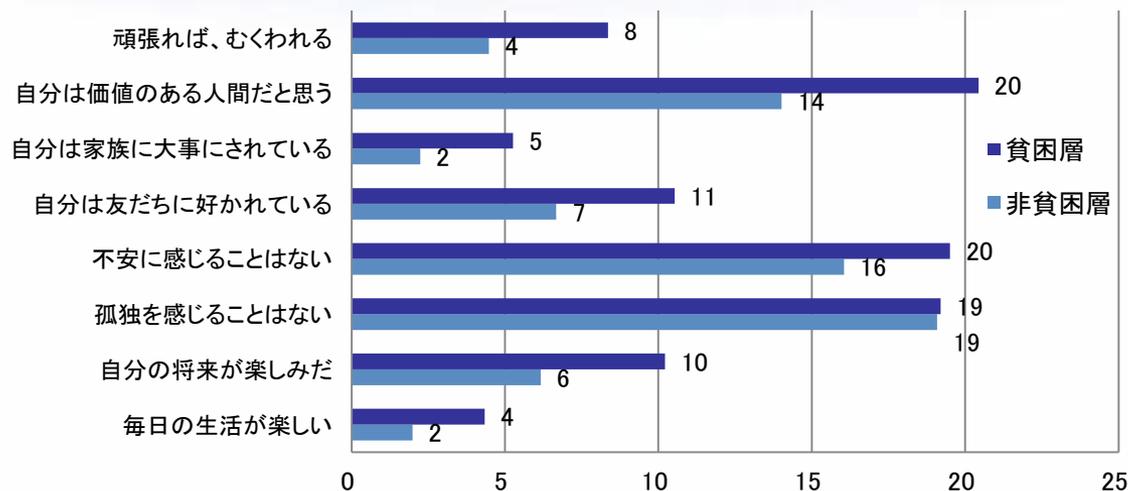
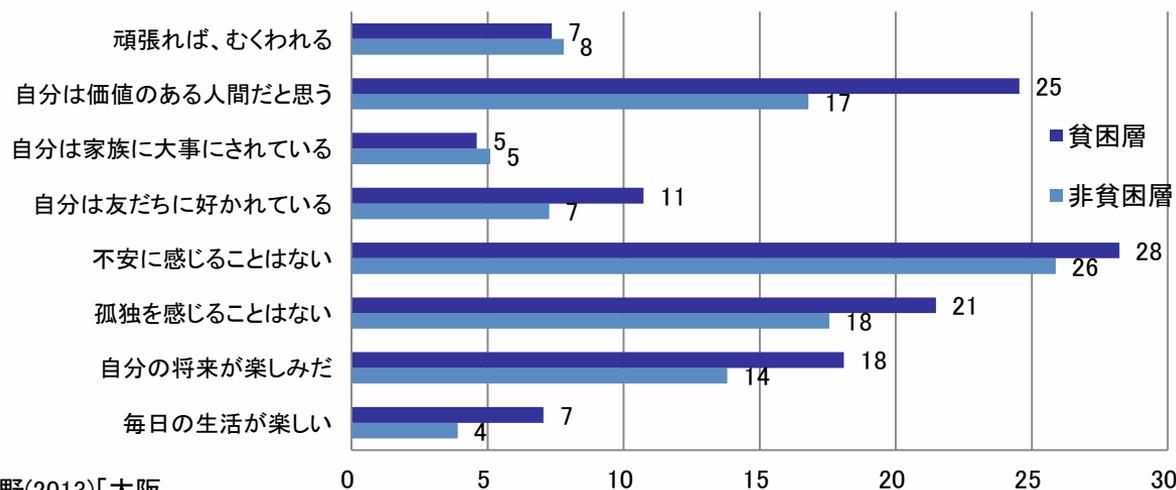


図8-6 子どもの自己肯定感：「そう思わない」とした割合（中学2年生）（％）



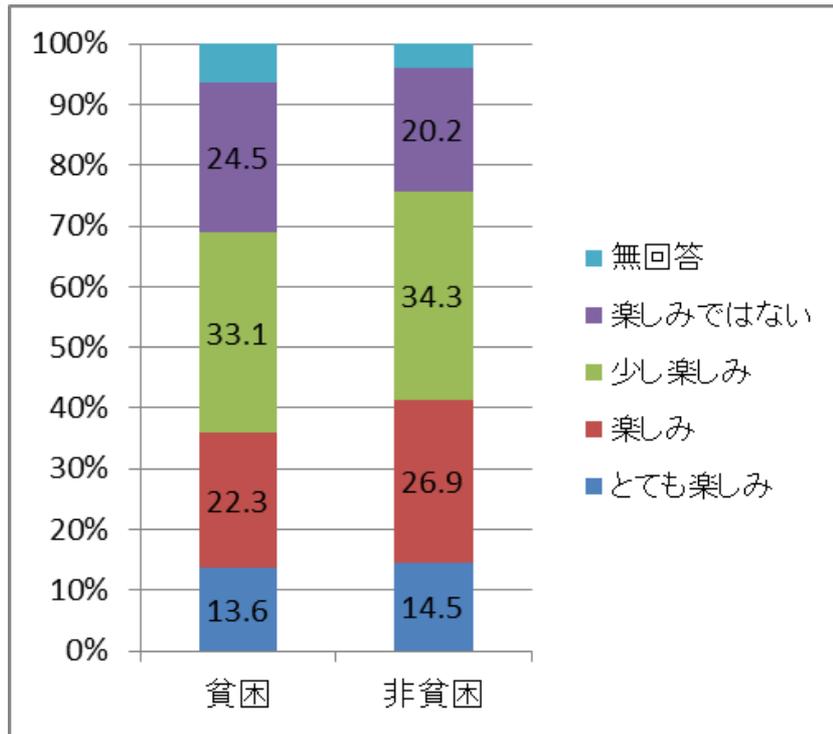
自己肯定感を育む場としての学校

- ・ わからない授業
 - ・ 遠い先生
 - ・ 少ない友人
 - ・ いじめ
-
- ・ 自己肯定感を育むどころか、学校が排除するメカニズムとなる可能性



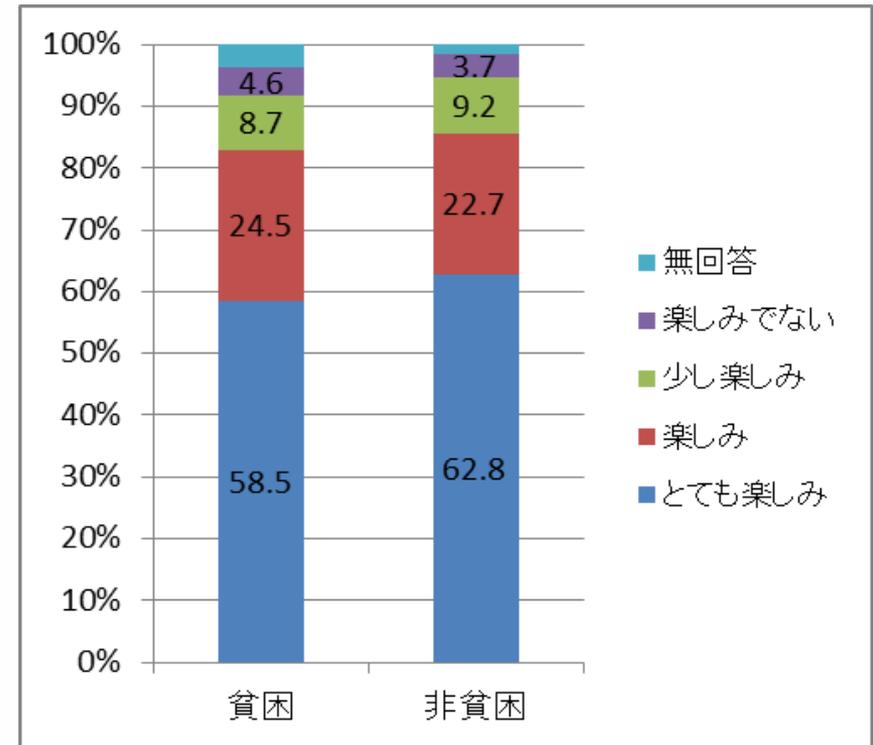
学校は楽しいか(小学5年生)

学校の授業 (体育・音楽・図工以外)



$\chi^2=8.96$ $p=0.0621$

学校の授業(体育・音楽・図工)



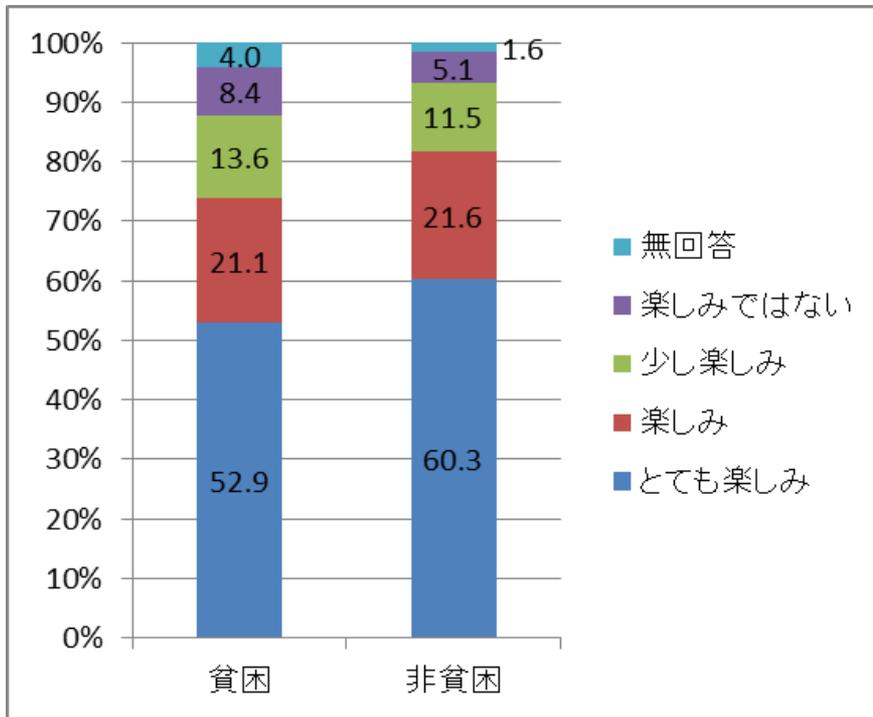
$\chi^2=8.82$ $p=0.0657$

- 若干ではあるが、貧困層の子どもは非貧困層の子どもより学校を楽しんでいる率が少ない

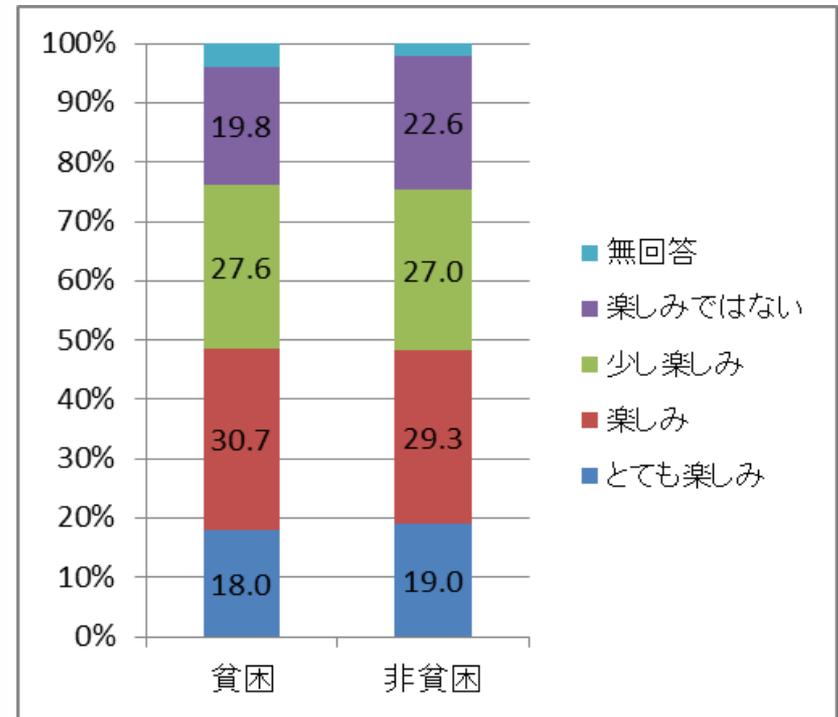
学校生活は楽しいか(小学5年)

学校のクラブ活動が...

先生と会うことが...



$\chi^2=18.437$ $p=0.001$



$\chi^2=6.40$ $p=0.1709$

- ・ 学校でのクラブ活動については、大きい差がある
- ・ 先生と会うことについては、差がない



自己肯定感を測る

(子ども表問12)あなたの思いや気持ちを聞かせてください。次について、アからエのもっとも近い記号に○をつけてください。

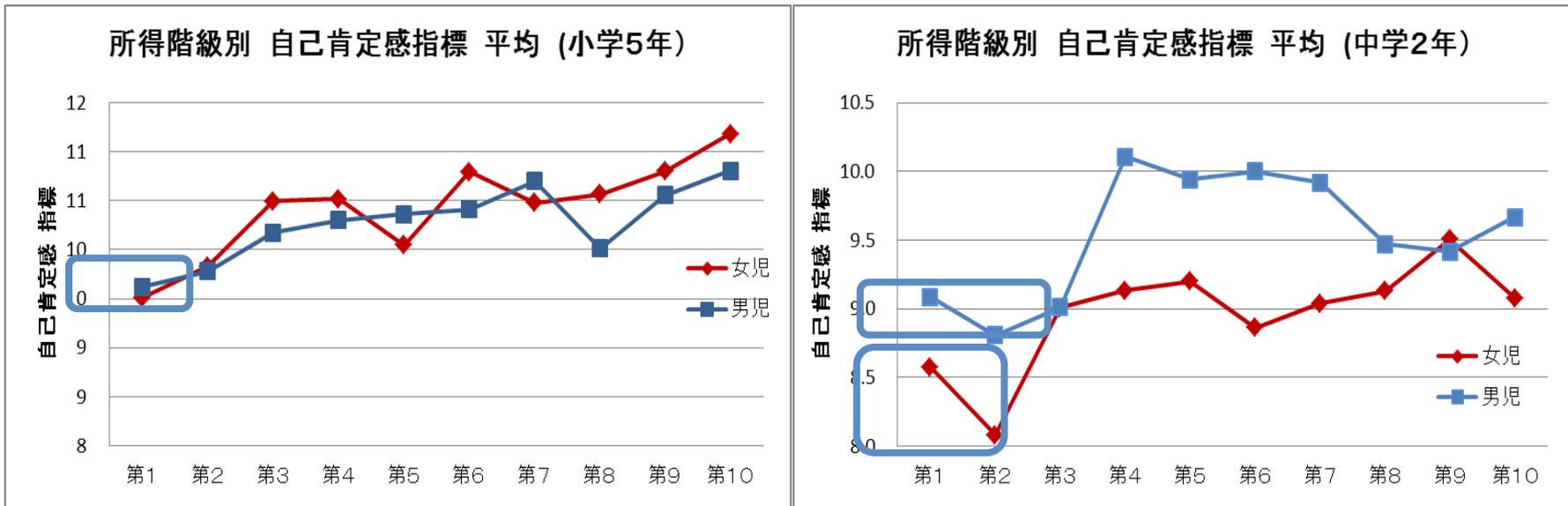
アとても思う(3点) イ思う(2点) ウあまり思わない(1点) エ思わない(0点)

- ① 「がんばれば、むくわれる」
- ② 「自分は価値のある人間だと思う」
- ③ 「自分は家族に大事にされている」
- ④ 「自分は友だちに好かれている」
- ⑤ 「自分の将来が楽しみだ」

5つの質問に対する回答を指標化、0(最低)~15(最高)



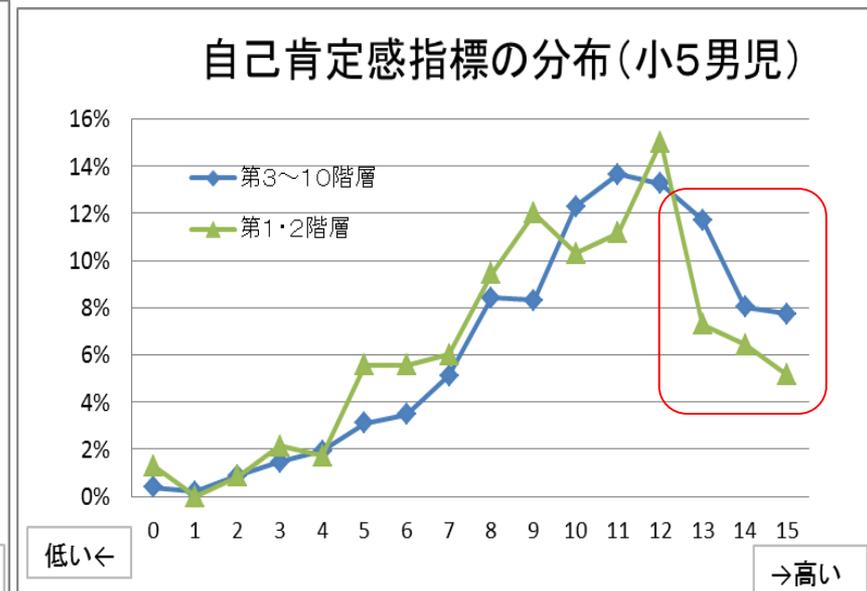
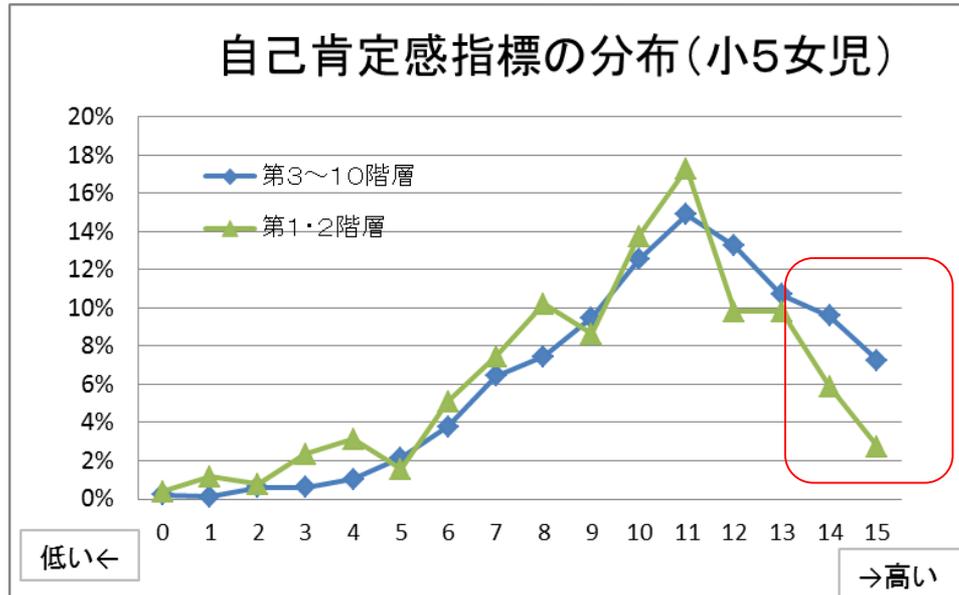
所得階級と自己肯定感



- 所得階級別(第1階級と第2~10階級、第1+2階級と第3~10階級、等)にT値を求めたところ、小学5年生男児・女児および中学2年女児では、最も大きい値を示したのが第1+2階級と第3~10階級の間であった。中学2年男児では、第1~3階級と第4~10階級の間であった。



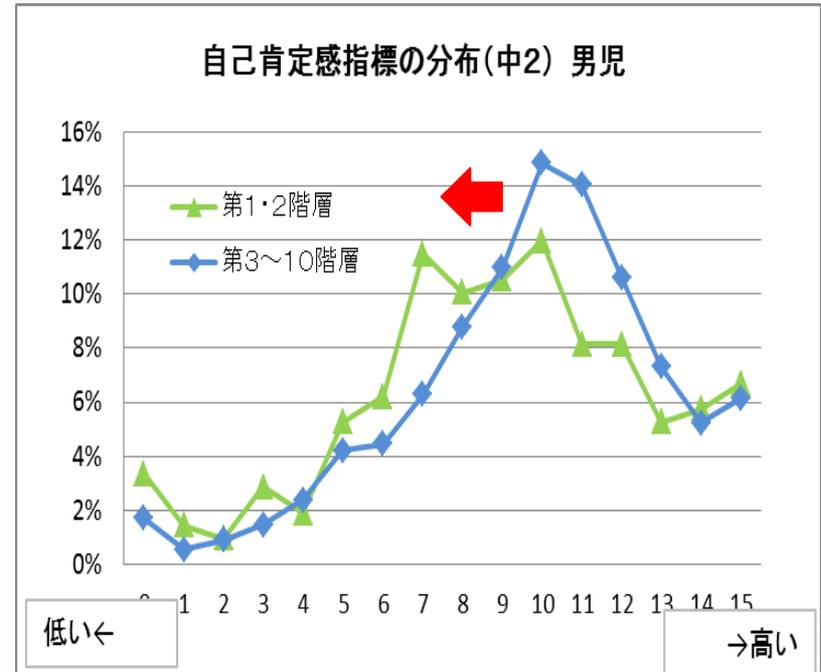
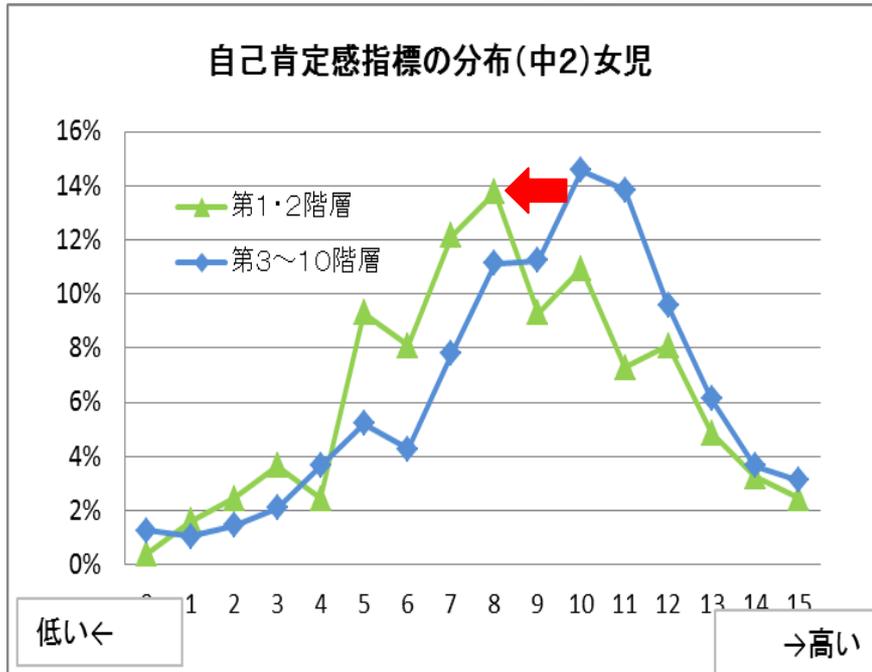
低所得層ではなぜ「平均」が低いのか



- ・ 小学5年では、低所得層(1・2階層)と中高所得層(3～10)で分布の大きな差はない
- ・ あえて言えば、自己肯定感の高い子どもの割合が低所得層では少ない。



しかし、中学2年では分布がシフト



- ・ 中学2年では、山ごと右にシフトしているように見える。⇒階層全体に貧困の影響が及んでいる



なぜ、低所得層の子どもは自己肯定感が低いのか

自己肯定感

学力

親の雇用形態

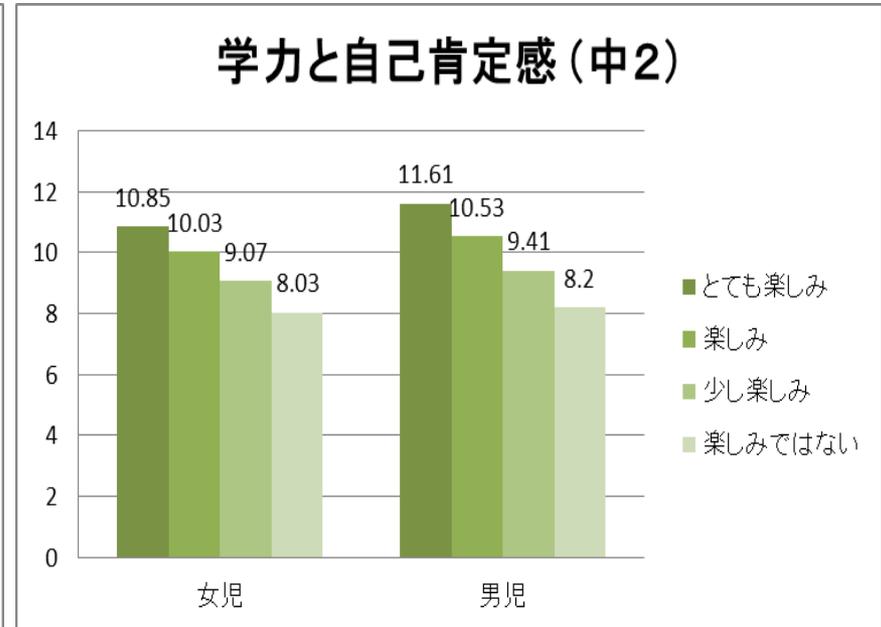
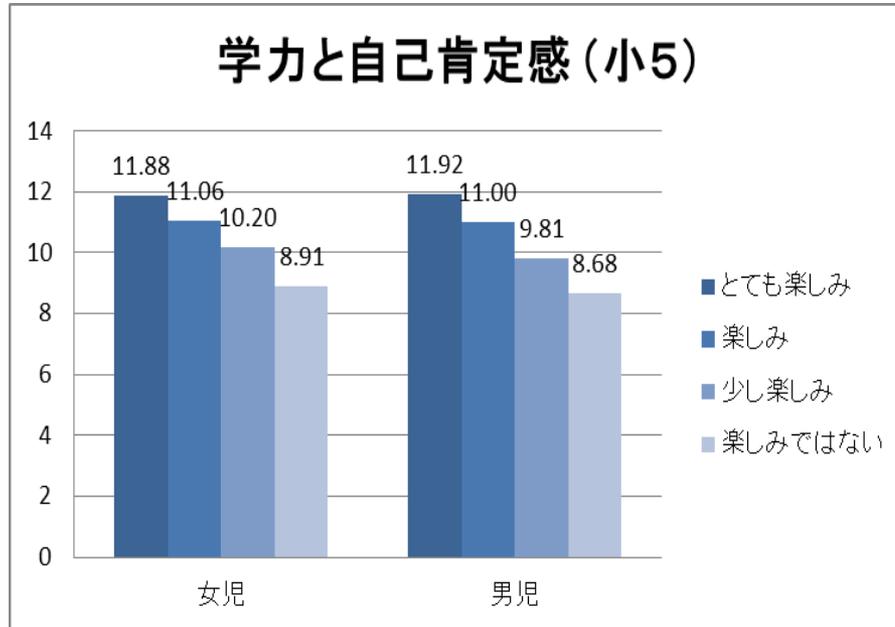
(負の)
文化資本

学力以外の
能力

貧困
ステータス



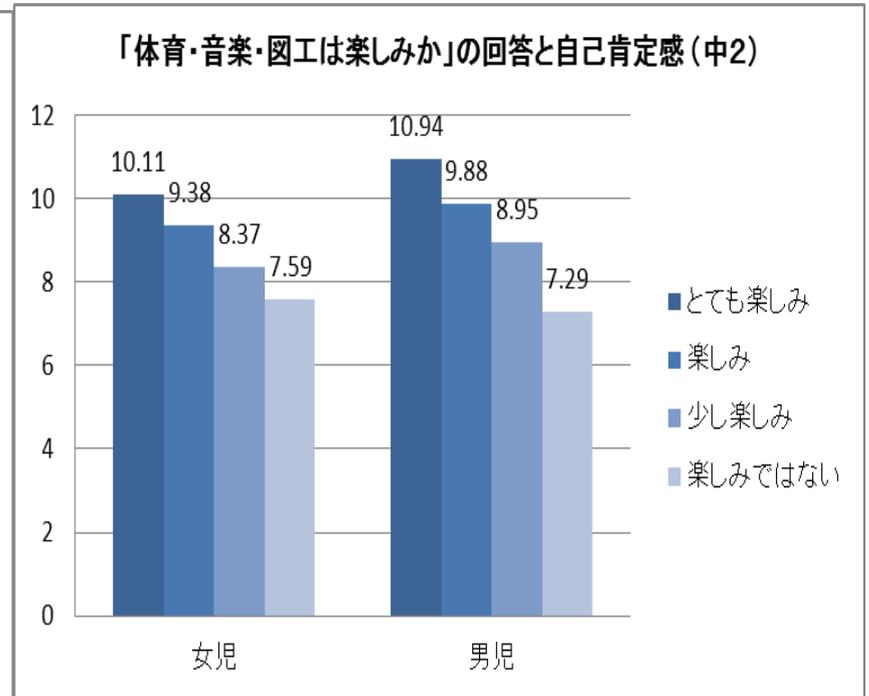
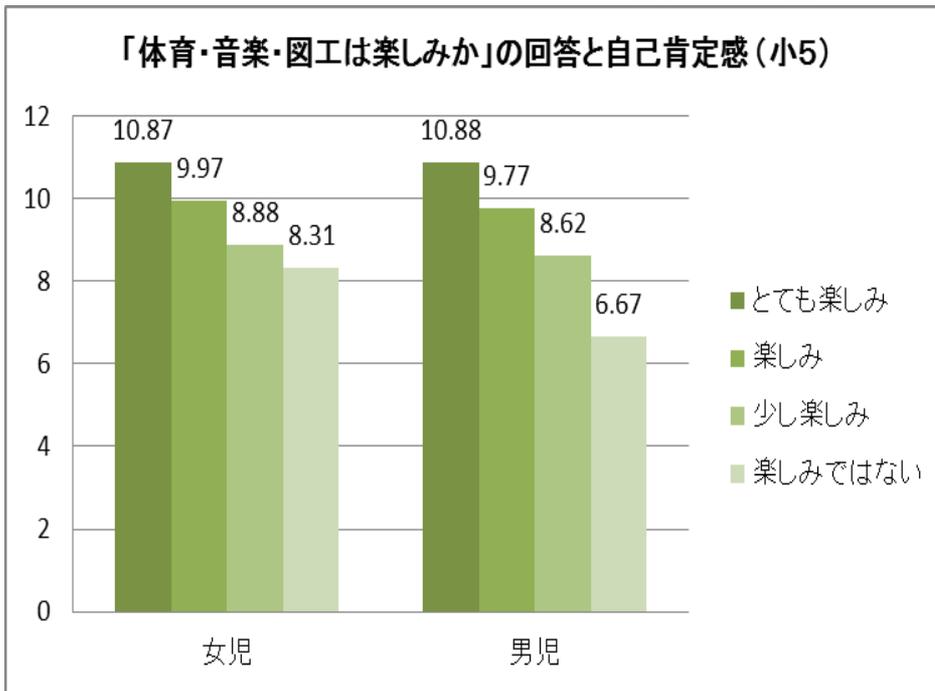
学力の自己肯定感の関係



- ・（仮説）学力が高いと、自己肯定感が高まる
- ・ 学力を直接はかってはいないので、「学校が楽しいか」を代理変数として用いる。
- 21 結果は、学力と自己肯定感には明らかな関係がある



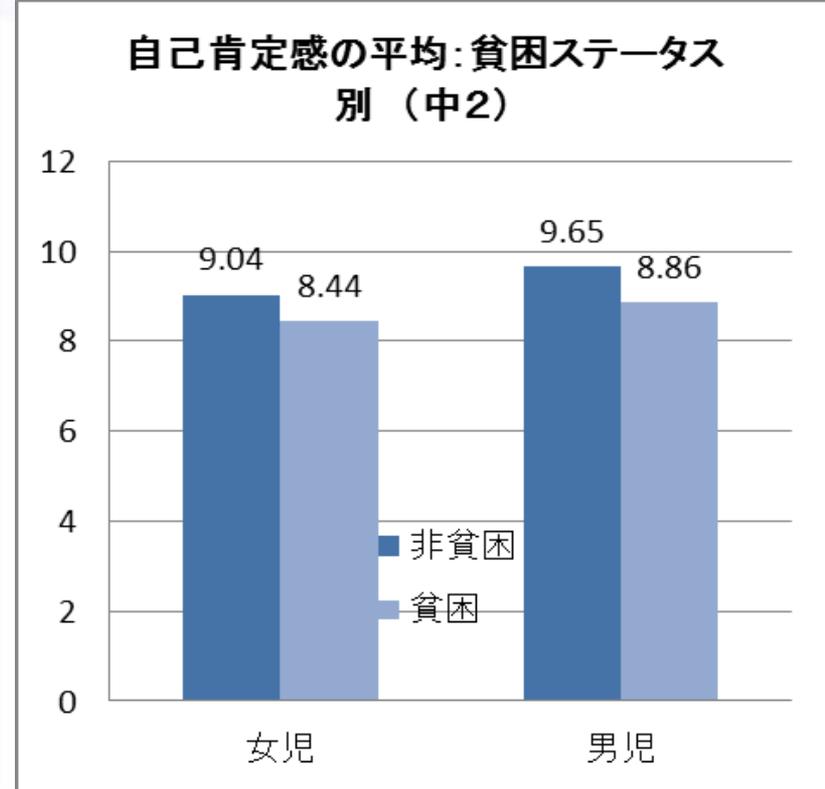
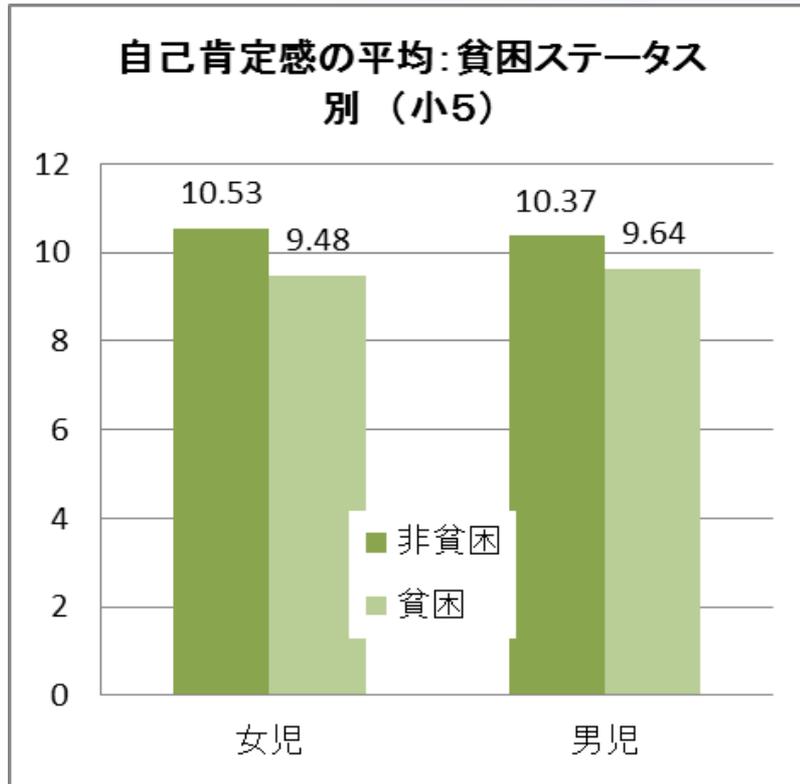
学力以外の能力と自己肯定感の関係



- ・ 学力以外の能力が直接測れないので「体育・音楽・図工は楽しみか」の回答を代理変数として用いる
- ・ 結果は、「楽しみ」な子どもほど自己肯定感が高い。



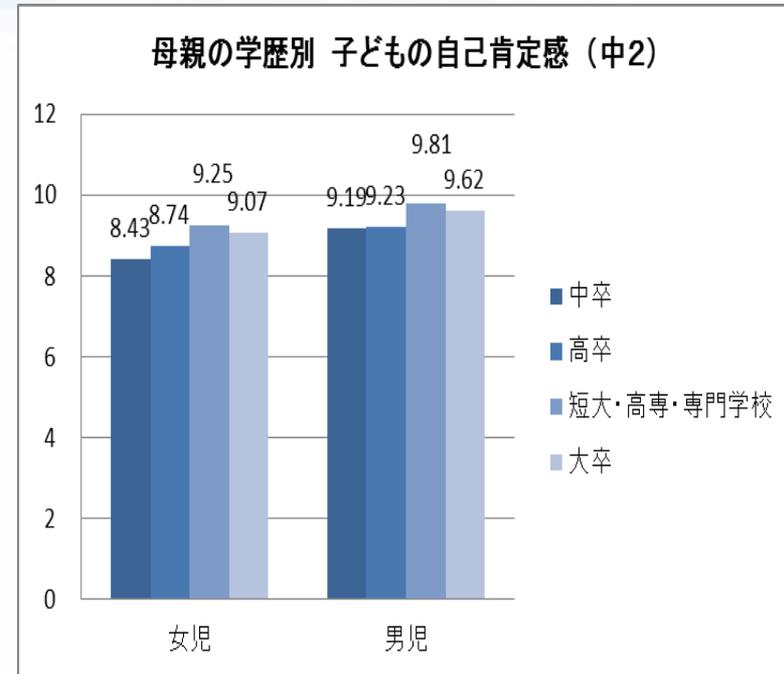
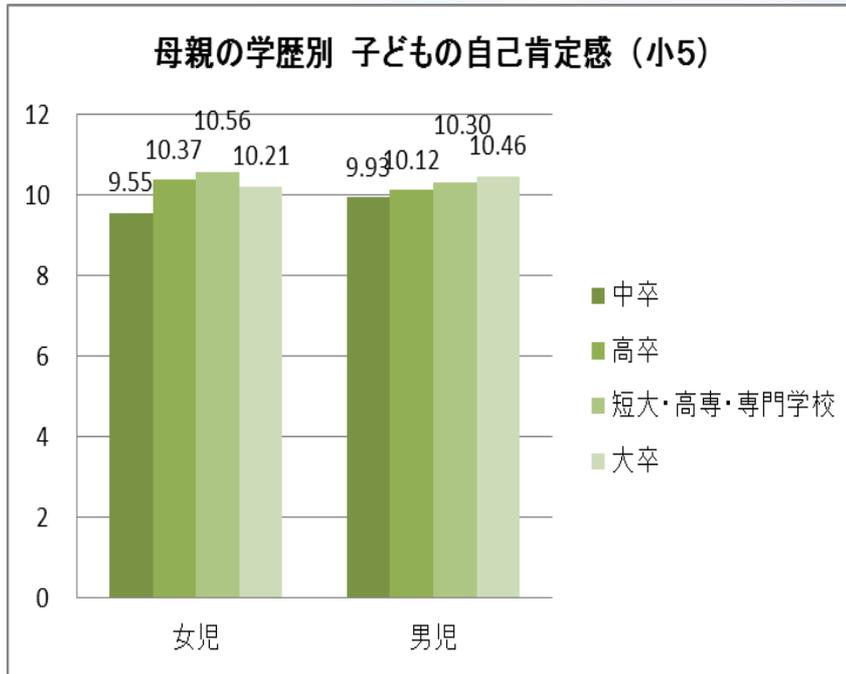
貧困ステータスと自己肯定感



- ・ 貧困であることのスティグマ。現代日本においては、社会的な成功と報酬の額が一体視されている。貧困であること＝負け組という価値意識を内面化している？
- 23
- ・ 結果は、差はあるが、それほど大きな差でもない。



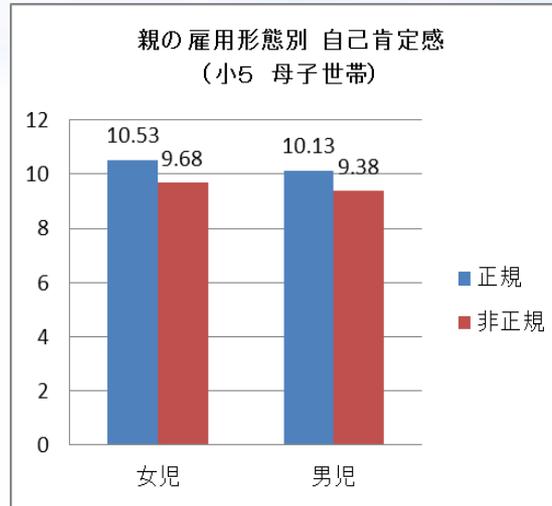
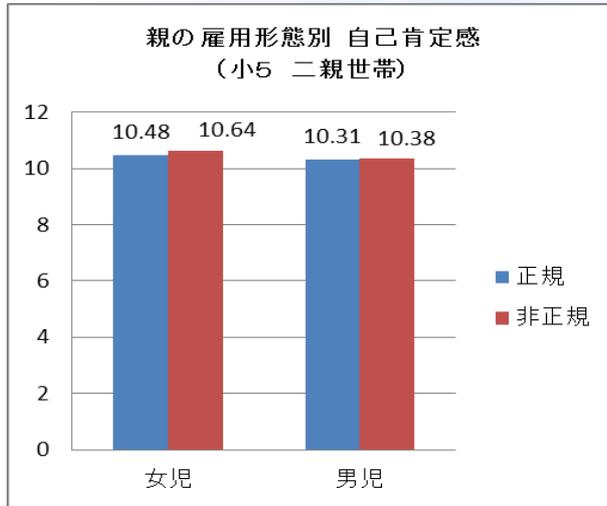
親の学歴と自己肯定感



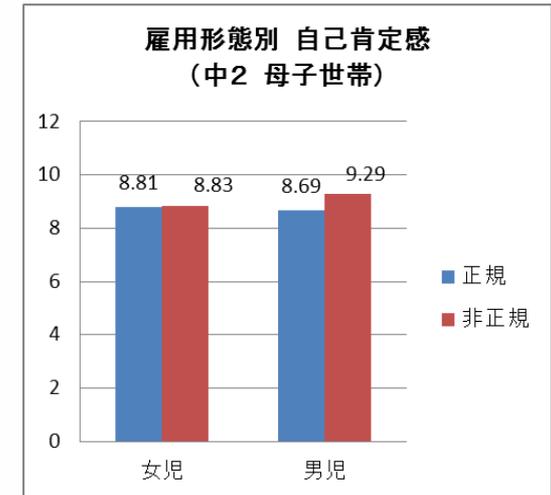
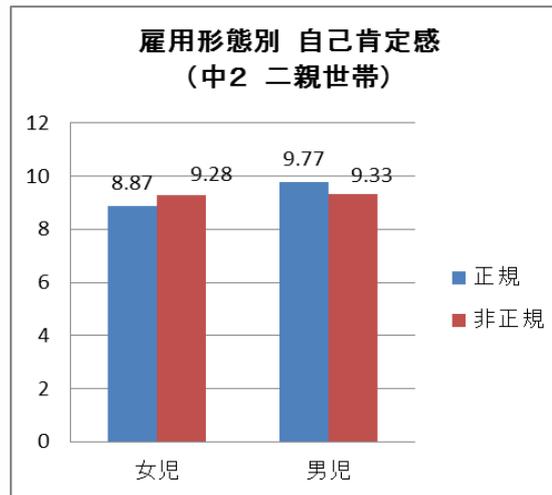
- ・ 文化資本としての、親の学歴。親が自尊感情が低いと子どもにも影響するという指摘。
- ・ ネガティブな評価を聞かされ続けていると、それが内面化してしまう可能性
- ・ (結果) 中卒の親の場合、若干、低い自己肯定感であるが、大きな差はない。



親の雇用形態と自己肯定感



- ・ 世帯内の最多所得者の雇用形態
- ・ 結果 小5母子世帯では差が確認できるものの、全体的には統一した結果ではない。



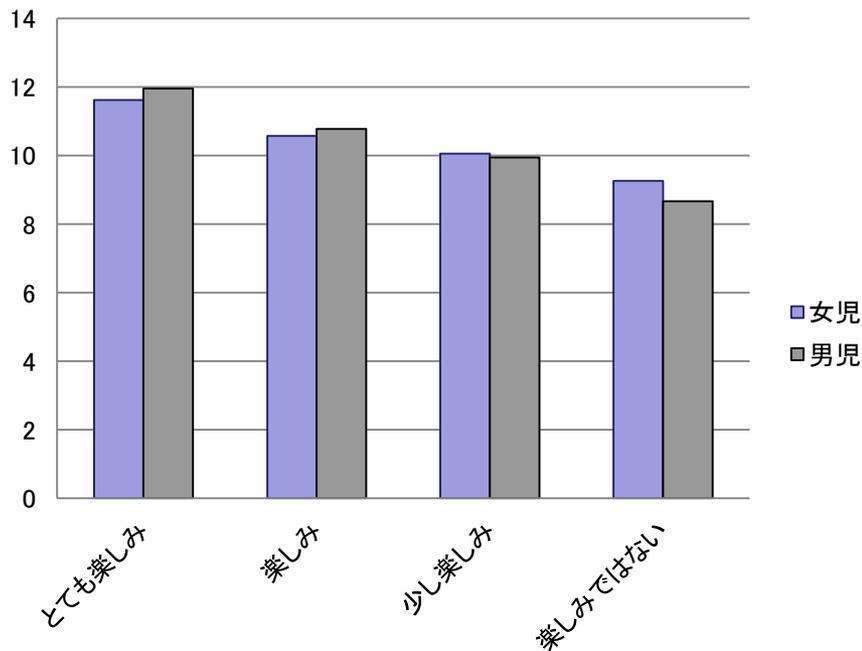
レジリエント要因を探す

- ・ レジリエント要因： 貧困による悪影響を緩和する働きをするもの。レジリエント(resilient)な子どもと、そうでない子どもの違い
- ・ 候補：
 - 1) 良好な親子関係 (フレイザーら2009)
 - 2) 思いやりのある大人(メンターなど)の存在(フレイザーら2009、志水2014など)

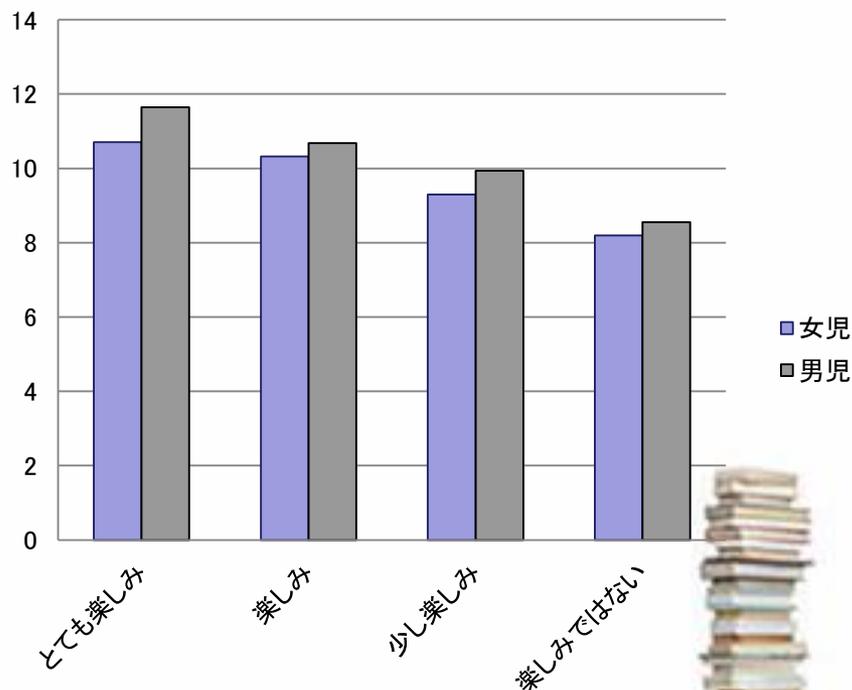


レジリエンス要因候補： 子どもと先生との関係

「先生に会うのが楽しみか」回答別、自己肯定感指標 平均
(小学5年)



「先生に会うのが楽しみか」回答別、自己肯定感指標 平均
(中学2年)



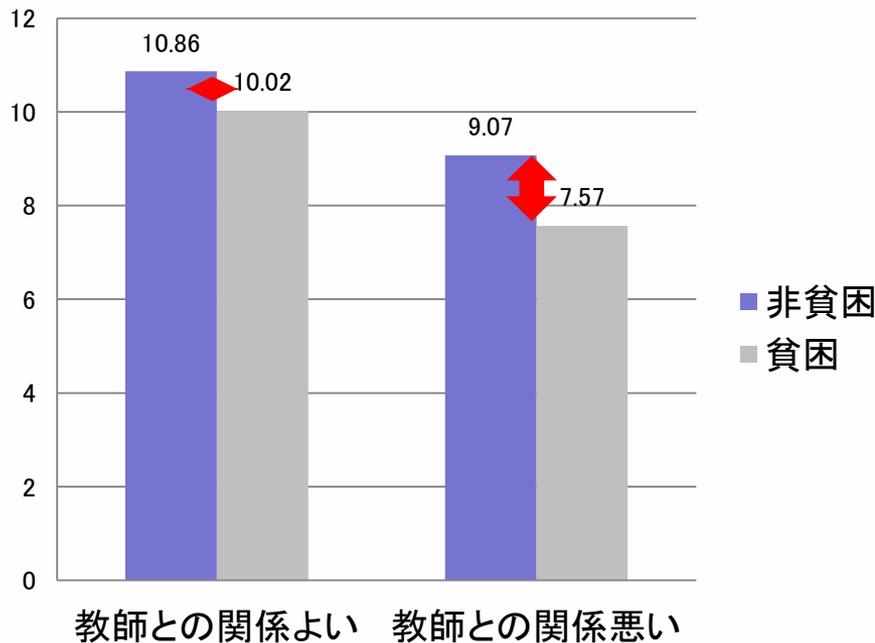
- ・ 良好な教師との関係の代理変数として、「先生と会うのが楽しみか」の答えを用いる

27 先生と会うのが楽しみなほど自己肯定感が高い

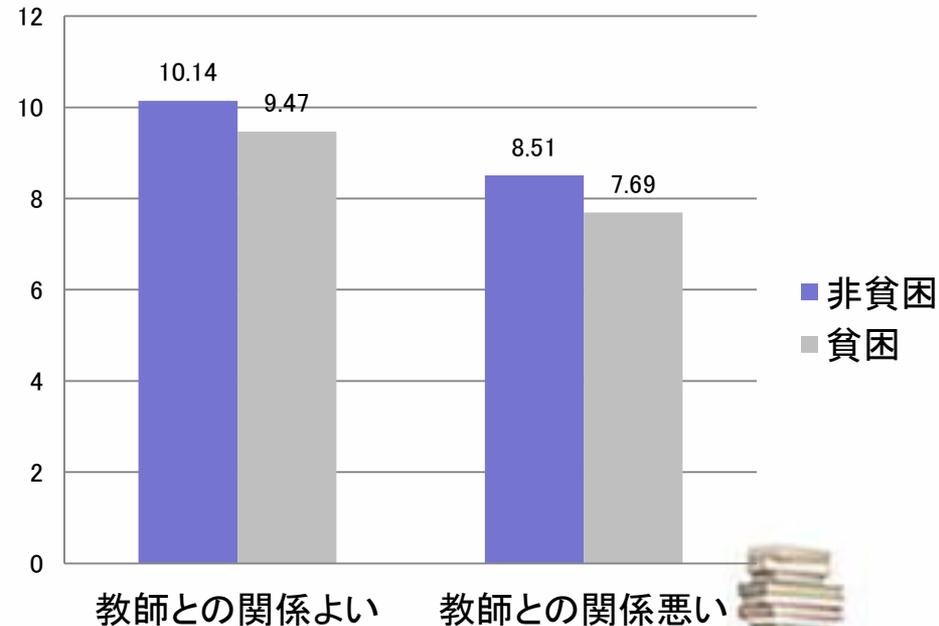


「教師との関係」のレジリエンス効果

自己肯定感 平均（小5）



自己肯定感 平均（中2）

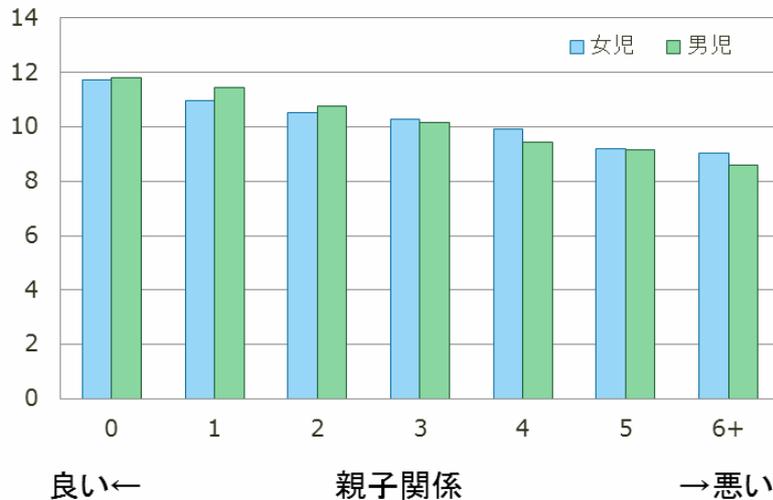


- ・（小5）教師との関係がよいグループの差は0.84***、悪いグループの差は1.50***.
- ・（中2）教師との関係がよいグループの差は0.67**、悪いグループで
28の差は0.81***

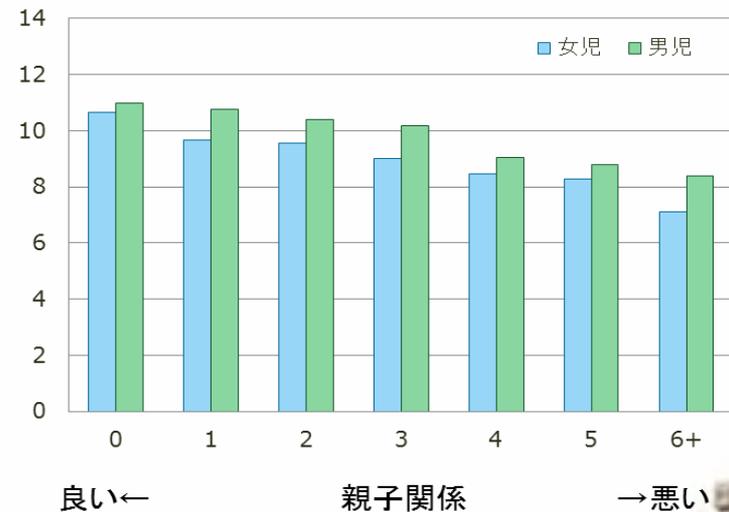


親子関係と自己肯定感

親子関係指標と自己肯定感(小5)



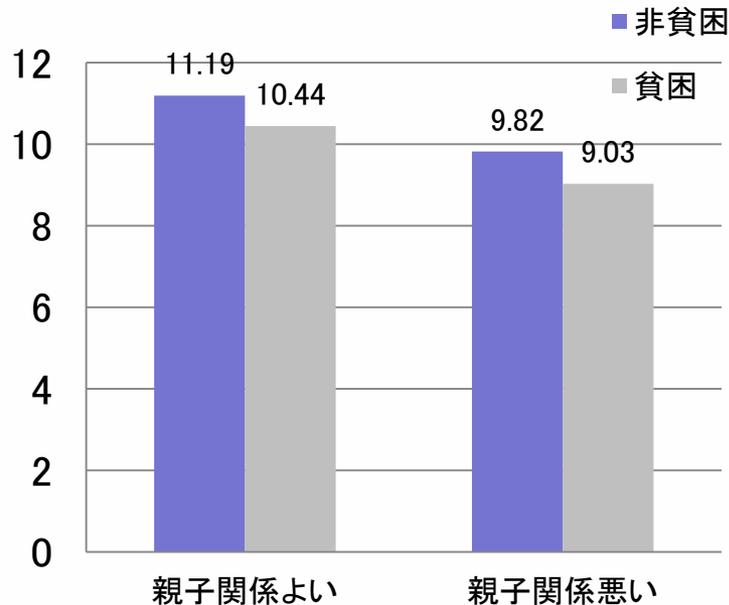
親子関係指標と自己肯定感(中2)



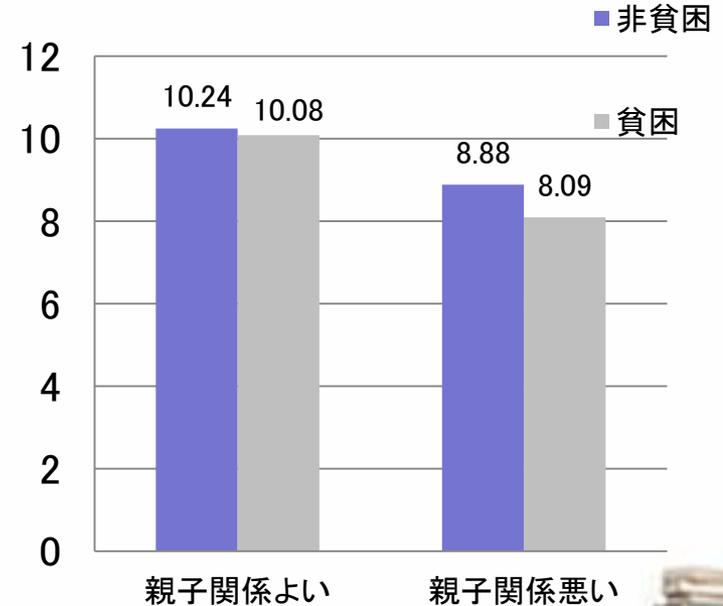
- ・ 親の「お子さんと会話しますか」「お子さんと十分に時間を過ごしますか」「お子さんの将来の夢を知っていますか」「お子さんを信頼していますか」の回答から指標作成。
- ・ 親子関係がよいほど、自己肯定感が高い。

親子関係のレジリエンス効果

自己肯定感 平均（小5）



自己肯定感 平均（中2）



- ・（小5）親との関係がよいグループの差は0.75、悪いグループの差は0.79.
- ・（中2）親との関係がよいグループの差は0.16、悪いグループでの差は0.79



まとめ 自己肯定感の規定要因

- ・ 所得階層1～2の子どもは、中高所得階層の子どもに比べ、自己肯定感が低い。
- ・ 学力、学力以外(音楽・体育・図工)の能力は、自己肯定感に大きく影響
- ・ 親の学歴、親の雇用形態は、それほど大きな影響は見られない
- ・ 良好な親との関係、良好な先生との関係は、貧困による自己肯定感の悪影響を緩和する効果(レジリエンス効果)がある



ありがとうございました

